

2 日 目

第 6 学年 1 組 体育科学習指導案

平成28年 2月 4日 (木) 公開授業 I

平成28年 2月 5日 (金) 公開授業 II

会 場 2階-⑧ (中学校体育館)

授業者 新潟大学教育学部附属新潟小学校
教諭 山形 昭

1 単元名 冬季フソリンピック - 跳び箱運動 -

2 本単元の価値

学習指導要領の第5学年及び第6学年の2内容のB器械運動には、次のように示されている。

<技能>

(1) 運動の楽しさや喜びに触れ、その技ができるようにする。

ウ 跳び箱運動では、基本的な支持跳び越し技を安定して行うとともに、その発展技を行うこと。

【切り返し系の技の例示】

○安定した開脚跳び ○大きな開脚跳び ○かかえ込み跳び

【回転系の技の例示】

○安定した台上前転 ○大きな台上前転 (発展技：首はね跳び、頭はね跳び)

<態度>

(2) 運動に進んで取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすることができるようにする。

<思考・判断>

(3) 自己の能力に適した課題の解決の仕方や技の組み合わせ方を工夫できるようにする。

本単元では、基本的な支持跳び越し技(切り返し系、回転系)に組み込み、様々な技が安定してできるようにするとともに、ペアやグループで動きをそろえて演技できるようにする。子どもにきちんと技能を高めさせ、高めた喜びを味わわせるために、技を絞って提示する。技能を高めるとは、普通の跳び箱ではできなくても、練習の跳び箱ならできるようになったというように、難易度を上げた練習の場でできるようになったことを指す。

まずは、「台上前転、首(頭)はね跳び」の2つの技に組みませる(1日目)。それぞれの技の中から自己の能力に適した技や段数、練習の場を選択させ、自分の身に付けたい技が上達できるようにさせる。

その後、「開脚跳び、かかえ込み跳び」の2つの技に組みませる(2日目)。前次と同様に、それぞれの技の中から自己の能力に適した技や段数、練習の場を選択させ、自分の身に付けたい技が上達できるようにさせる。

最終的には身に付けた技を取り入れ、ペアやグループで動きをそろえて演技できるようにする。指導に際しては、以下の5点を取り入れる。

- ① 基礎となる運動感覚を養う易しい運動を取り入れる。
- ② 補助具を用いた練習の場を設定する。
- ③ ペアやグループを組ませ、練習の補助をさせたり、タブレット端末、動画アプリを使ってお互いの動きを撮影させたりする。
- ④ 自分の映像や手本の映像、友達のこつが書かれた「達成の秘伝書」を基に、跳び箱運動の技能を上達させるための体の動かし方を見いださせる。
- ⑤ 学びの過程が見えるように、「動きチェックカード」を記述させる。

本単元では、できない自分とできた友達や示範者(以下、手本)との体の動かし方を比較させて跳び箱運動の技能を高めるための体の動かし方を見いださせる。「勢いを付ければできるようになる」と考え、体の動かし方を意識していない子どもを、「勢いを付けるためには、体をこう動かせばよい」と、体の動かし方に着目させる。

加えて、「自分と手本の体の動かし方を比較すれば、技能を高めるための体の動かし方を見だし、技能を高めることができる」と、課題解決の仕方も習得させる。

それにより、子どもは他の運動場面でも、「自分と手本の体の動かし方を比較して、体の動かし方に着目して運動すれば、技能を高めることができる」という考え方が養われる。これが、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成につながるのである。

3 本単元で目指す姿

跳び箱運動の技能を高めるための体の動かし方を見いだす子ども

(1) 「中核的な学習内容」

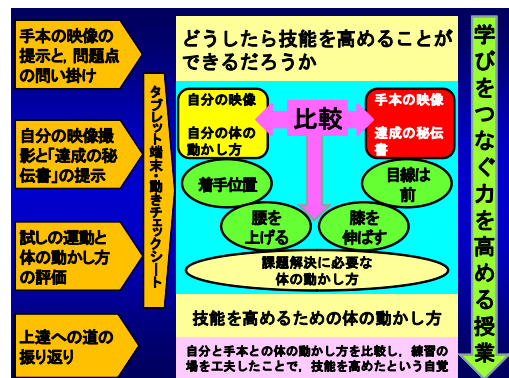
技能を高めるための体の動かし方

(2) 「学びをつなぐ力」

- ① 比較するすべを用いて、自分と手本との体の動かし方の相違点から、跳び箱運動の技能を高めるために必要な体の動かし方を考える力
- ② 関係付けるすべを用いて、考えた体の動かし方を試し、跳び箱運動の技能を高めるための体の動かし方を見いだす力

(3) 「学びをつなぐ力」の有用性の自覚

自分と手本との体の動かし方を比較し、練習の場を工夫したことで、技能を高めたことの自覚



4 指導の構想

まずは、基礎となる運動感覚を養うための易しい運動に取り組ませる。ここでの子どもは、体の動かし方に着目して練習すればできるようになるとは考えず、「勢いを付ければできる」「怖がらずに跳べばできる」と考えている。

働き掛け 1

跳び箱運動の手本の映像を提示し、できない原因を問う。

自分の課題を設定させるための働き掛けである。まず、切り返し系の技（開脚跳び、かかえ込み跳び）、回転系の技（台上前転、首（頭）はね跳び）の運動局面ごとの絵を提示し、様々な技の中から自分の能力に応じた技を一つ選択させる。そして、選択した技を実際に試させ、できるようになった場合は新たな技を再度選択させる。子どもは、難易度を高めて新たな技に取り組むことで、やがてできない技に出合う。このような子どもに学習のめあてを問う。子どもは、できない技ができるようになりたいというめあてを立てる。

めあてを立てた子どもに、切り返し系の技（開脚跳び、かかえ込み跳び）、回転系の技（台上前転、首（頭）はね跳び）の**手本の映像（「対象」①）**を提示し、めあての技ができない原因を問う。すると子どもは、「どのように体を動かせばできるようになるのだろうか」と自分の課題を設定する。自分の運動の様子を観察したいと考えた子どもに、自分の切り返し系の技や回転系の技の運動の様子をタブレット端末を使ってスロー動画で撮影させる。

この時点で技ができた子どもに、「なぜ、その技ができるのか。気を付けていることはあるか」を問い、技ができるようになるための「運動のこつ」を付箋に記入させておく（達成の秘伝書）。さらに、同じめあてをもった子ども同士でペアやグループを組んでおく。

働き掛け 2（1日目・2日目）

台上前転や首（頭）はね跳び（2日目は、かかえ込み跳びや開脚跳び）の手本の映像と台上前転や首（頭）はね跳び（2日目は、かかえ込み跳びや開脚跳び）の「達成の秘伝書」とを提示する。

自分の体の動かし方と手本の体の動かし方との比較により、課題解決に必要な体の動かし方を考えさせ、できるようになるための見通しをもたせる働き掛けである。体をどう動かせばできるようになるのかと考えている子どもに、再度**手本の映像（「対象」①）**を提示したり、できた友達の運動のこつが書かれた「達成の秘伝書」（「対象」②）を提示したりする。子どもは、比較するすべを用いて、自分の体の動かし方と手本の体の動かし方とを比べ、自分と手本の体の動かし方の共通点や相違点を考える。そして、できない原因に気づき、「手本の体の動かし方をまねしてみるとできるようになるのではないかと課題解決の見通しをもつ。

働き掛け 3（1日目・2日目）

自分の課題に応じた練習の場を工夫させながら、台上前転や頭はね跳び（2日目は、かかえ込み跳びや開脚跳び）の技能が高まりそうな体の動かし方を試させる。

技能を高めるための体の動かし方を見いださせる働き掛けである。子どもに、様々な練習の場を提示し、課題に応じた練習の場を選択させ、試しの運動を行わせる。試しながら、自分が選んだ手本の体の動かし方が自分の課題を解決するのに適しているかどうかを評価させる。子どもは、関係付けるすべを用いて、できない原因と手本の体の動かし方を試した結果とをつなぎ、課題解決に必要な体の動かし方かどうかを判断する。そして、『「対象」から新たな体の動かし方を得る→練習の場を工夫する→試す』という一連の流れを繰り返し、**跳び箱運動の技能を高めるための体の動かし方を見だし**、技能を高める。

また、「学びをつなぐ力」の有用性を自覚させるために「見付けたこつ」と「こつの見付け方」を問い、「跳び箱運動上達への道」を振り返らせる。子どもは、自分と手本との体の動かし方を比較し練習の場を工夫したことで、跳び箱運動の技能を高めることができたことと自覚する。

5 指導計画 全6時間（18Q）


別紙「単元カード」参照

6 本時の構想<第2日目> 4/6時間(45分授業)

(1) ねらい

かかえ込み跳びや開脚跳びの技能を高めるための体の動かし方を見だし、かかえ込み跳びや開脚跳びの技能を高めることができる。

(2) 展開

学習活動と子どもの姿 ☆考えるすべ	教師の働き掛け
<p>1 自分の体の動かし方と手本の体の動かし方を見比べて、体の動かし方の相違点を探し、「動きチェックシート」に記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・僕は、手を跳び箱の前の方に着いていない。 ・かかえ込み跳びで、僕は目線が跳び箱だけど、手本は前を見ている。だから足が抜けないのかな。 ・踏み切りが弱いのかな。 ・「達成の秘伝書」には、腰を高く上げるとよいと書いてある。 ・肩を手よりも前に出すようにするとよいらしいぞ。 ・「トッ、ドン、バン、ピタ」のようなリズムも必要なのか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>○ 動かし方が違う。もしかして、□□(部位)を△△のように動かすとできるようになるのではないか。</p> <p style="text-align: right;">☆つなぐ力①</p> </div>	<p>○学習問題を提示する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>切り返し系のめあての技ができるようになるには、体のどこをどう動かしたらよいのか。</p> </div> <p>○指示「こちらにできた友達のこつが書かれた『達成の秘伝書』があります。この秘伝書を見たり、手本の映像を見たりして、できない原因を考えて見ましょう」</p> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  </div> <p>○発問「自分の体の動かし方と手本の体の動かし方の同じところや違うところはどこでしょうか。『動きチェックシート』に書きましょう」</p> <p style="text-align: right;">【働き掛け2】</p> <p>○指示「見付けたことを発表しましょう」</p> <p>○発問「技ができない原因とできるようになるための体の動かし方は何でしょうか。1つだけ『動きチェックシート』に書きましょう」</p>
<p>2 自分の課題に応じた練習の場を選択し、手本の体の動かし方を試しながら、その体の動かし方が自分に合っているかどうかを評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腰を高く上げるために、ゴムの場や段差の場でやってみよう。 ・足が抜けないから、溝の場で挑戦してみよう。 ・手を跳び箱の前の方に着くといいぞ。○だ。そのためには、強く踏み切らないと駄目だ。 ・目線が前だと跳べそうだ。以前よりも足を跳び箱の前の方に着けたぞ。○だ。 ・腰を高くするには、肩を前に出すといいぞ。跳べるようになったぞ。◎だ。 	<p>○指示「では、その体の動かし方が自分に合っているかどうか、実際に運動して試してみます。試した体の動かし方が、自分に合っていたかどうか◎○×の3段階で評価し、『動きチェックシート』に書きましょう。うまくいかなかった場合は、別の体の動かし方を探して、自分に合ったものを見付けてみましょう」</p> <p style="text-align: right;">【働き掛け3】</p> <p>○指示「練習の場を5つ用意しました。自分の課題に合っている場を選んで運動しましょう。いろいろな練習の場ができるようになりますよ。また、高さなどは自分たちで変えても構いません」</p>

・リズムを意識したら、跳べるようになったぞ。◎だ。

○ □□（部位）を△△のように動かすことができそうだ。この動かし方は自分に合っているぞ。

☆つなぐ力②

3 手本の映像や「達成の秘伝書」を基に、自分の体の動かし方と手本の体の動かし方を比較して、課題解決に必要な体の動かし方を見いだしたことにより、技能を高めたことが分かる。

○ 手本の映像を見て、自分の映像と比べたら、手よりも前に肩を出すこと、腰を高く上げること、前を見ることが大切だと分かり、それに気を付けて運動しました。すると、かかえ込み跳びが練習の場でできるようになりました。

<練習の場>

- ① マットの場（恐怖心の緩和）
- ② ゴムの場（高く振り上げる意識付け）
- ③ 段差の場（踏み切り位置を高く）
- ④ 溝の場（かかえ込み跳びの練習）
- ⑤ 普通の場（横向き、縦向き）

※ 練習の場のやり方やその場の効果を説明する。

○ 指示「集合。めあての技ができるようになったり、うまくなったりしましたか。シートに見付けたこつとどのようにしてそのこつを見付けたのかを振り返り、上達への道を書きましょう」

(3) 評価

かかえ込み跳びや開脚跳びの技能を高めるための体の動かし方を見だし、かかえ込み跳びや開脚跳びの技能を高めることができたかどうかを、「動きチェックシート」の記述や実際の子どもの動きから評価する。

【参考文献】

- ・学校体育実技指導資料第10集 器械運動指導の手引 文部科学省
- ・教師用指導書 小学校体育（運動領域）まるわかりハンドブック 高学年 文部科学省
- ・器械運動の動感指導と運動学 三木四郎著 明和出版
- ・新しい体育授業の運動学 三木四郎著 明和出版
- ・みんなの体育 学研